

令和6年度事務事業評価（外部評価）（案）

事業名	高齢者等外出支援サービス事業費	所管課	健康福祉部 高齢者支援課
評価結果	抜本的見直し		
評価コメント （案）	<p>類似事業を行う他市では、前日予約や電話予約が可能であることと比較すると、利用の都度、利用計画票を書面にて15日前までに提出する必要がある本市の運用は、利便性に課題があり、利用者が固定化されている一因でもであると推測される。</p> <p>また、民間の介護タクシーが普及してきた現在、高齢者の移動支援サービスを取り巻く環境は事業開始当初と大きく異なることから、改めて本事業が対象とするべき利用者の範囲や人数の把握が必要であると考えます。</p> <p>まずは、本事業の利用実態の把握に努め、事業が目指す姿を明確にするとともに、利便性の向上に向け、運用方法の抜本的な見直しが必要である。</p>		
外部評価者の主な意見			
<p>○所管課がこの事業についての目標数値を明確にする必要がある。</p> <p>○利用計画票の提出が15日前までに必要だということ、書面での手続きが必要ということに課題があり、利用者が固定化されている一番の原因になっているのではないかと推察される。事業者と調整し、できるだけコストが増加しない形で改善を図り、利便性を向上させることが望ましい。</p> <p>○介護タクシーが普及してきた現在の環境下で、利用者の固定化を解消するためにも、事業の在り方を考える必要がある。</p> <p>○類似事業を行っている他市の運用方法を参考に利便性の向上を図ると同時に、本市の利用者の固定化の状況や、利用実態を把握した上で事業の見直しを行うべきである。</p>			

事業名	ハンディキャブ運行事業費	所管課	健康福祉部 障害福祉課
評価結果	抜本の見直し		
評価コメント (案)	<p>本事業は需要が高く、予約が埋まっていることを理由に利用を断るケースも生じている。ストレッチャー型の車いすの利用者のように、民間サービスでの代替が難しい方が優先的に利用できる仕組みの構築や、需要に合わせた車両の確保ができるような委託内容の検討を行うなど、本事業を必要とする方にサービスが確実に届くよう、抜本的な見直しが必要である。</p> <p>また、類似する本市の他の移動支援サービスのように、受益者負担の導入の検討も必要であると考えます。</p>		
外部評価者の主な意見			
<p>○ニーズがあっても断っている状態を改善し、民間サービスで代替ができる対象者をそちらに寄せ、対象者の最適化をするという点には争点がないように感じる。</p> <p>○多くの方をお断りしているというような実態であれば、事業として問題である。新しい仕組みを作り直すというくらいの気構えでやらないと事業改善できないのではないかと。</p> <p>○利用実績に応じた契約とし、稼働が多い平日は、事業者が対応できる範囲で台数を増やし、休日は減らすなど、需給バランスをとることが必要ではないかと。</p> <p>○民間サービスでの代替が難しいストレッチャー型の車いすの利用者と、それ以外の利用者というところで線引きをするのが良いのではないかと。</p> <p>○一次評価、二次評価にあるような受益者負担の導入の検討も必要である。</p>			

事業名	下保谷四丁目特別緑地保全事業費	所管課	みどり環境部 みどり公園課
評価結果	改善・見直し		
評価コメント (案)	<p>特別緑地の保全と活用を両輪で進めていくためには、まずはそれぞれの視点での本事業の目標数値を明確にする必要があると考える。その上で、緑地の維持管理には多額の事業費を要しており、今後更なる増大が見込まれている現状からも、事業費の抑制のために、クラウドファンディングやふるさと納税をはじめとした寄附金制度の活用や、民間団体等との協働などの取組が必要である。</p> <p>将来的に、一般開放の拡大や管理運営体制の見直しなど、緑地の運用が変わっていく可能性もあることから、現時点ではあらゆる角度からの手法を検討されたい。</p>		
外部評価者の主な意見			
<p>○保全と活用を両輪で進めていくためには、保全についての目標数値も明確にする必要があるのではないかと。</p> <p>○今後、一般開放の拡大などの管理運営体制や、予算額が大きく動く可能性があることから抜本的な見直しが必要ではないかと。</p> <p>○今後も事業費の増大が想定されていることから、歳入の確保に向けた様々な工夫が必要である。</p> <p>○樹木の剪定や建屋の修繕をワークショップのようなイベントとして実施し、参加費を徴収することで、認知度の向上と併せて歳入の確保ができるのではないかと。</p> <p>○クラウドファンディングやふるさと納税などで寄附を募り、この緑地を守りたいという思いを持つ方が、寄附を通じて繋がりや思い入れを感じられるような仕組みがあれば効果的だと思う。</p> <p>○コスト削減に努めるだけでなく、NPO団体等に緑地を活動の場として提供し、その対価として保全活動を行っていただくなどの工夫も可能ではないかと。</p>			

事業名	文化財保護事業費 (デジタル技術の活用)	所管課	教育部 社会教育課
評価結果	抜本的見直し		
評価コメント (案)	<p>本事業は、下野谷遺跡の当時の様子をVRで観察できたり、解説が映像で見られたりするなど、教育的な観点からは意義がある。</p> <p>しかし、二次評価で指摘されているように、コンテンツの改修を含めた維持管理に多額の費用がかかっているものの、ダウンロード数は伸びておらず、アプリという形で公開する必要性には疑問がある。アプリ上で公開されているデジタルコンテンツをブラウザへ移行するなど、コンテンツの活用手法について抜本的に見直し、経費の削減に向けた取組が必要である。</p>		
外部評価者の主な意見			
<p>○アプリのダウンロード数は頭打ちであり、劇的には増えないと考える。特定のアプリや端末でなくとも閲覧できるようにすることで裾野を広げられるのではないか。</p> <p>○現地に足を運んだ人が、その場で見られるようなコンテンツであるべきである。</p> <p>○アプリの内容は、教育的な観点では意義があることから、現在公開されているコンテンツの内容は変える必要はないが、ブラウザ上で公開するなど、コストを下げる検討が必要である。</p> <p>○タブレットを貸し出しするのではなく、アプリのQRコードを掲載したチラシ等を配布し、個人の端末で見ていただくことも可能ではないか。</p> <p>○学校教材としてはとても良いが、縄文時代のムラを、「体感」「体験」「体得」することができるかという点は疑問がある。</p> <p>○既存のコンテンツの活用方法について抜本的に見直し、アプリ自体の更新やコンテンツ修正等を行うべきではない。</p>			